

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	堀川 祐里			実務経験の有無	×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310013	国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々に活かす方途をたえず模索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること			
授業の目的・テーマ	労働と社会保障を中心とした日本経済に関する卒業論文の作成				
内容	<p>このゼミでは国際社会を見渡すための視点を確立させるべく、日本経済に対する持論を確立させてほしいと思います。その際に、日本経済を理解するための切り口となるのは「労働問題」と「社会保障」です。</p> <p>自助原則の貫かれる資本主義社会において、私たちはどうやって生きていくのか、人生において労働ができないとき、社会にはいかなる仕組みが必要なのか、考えていきましょう。</p> <p>4年後期では卒業論文を完成させることとなりますが、学術論文の作法を身につけ、オリジナリティのある論文を完成させるため、履修生には精いっぱい努力してほしいと思います。</p> <p>夏休み明けには草稿を書き上げ、その後、2ヵ月間ほどをかけて、教員の添削に基づき推敲を行ってもらいます。11月末には完成稿を仕上げることを目処に卒論執筆を進めてください。</p> <p>なお、論文完成後には、卒業論文発表会に向けて、研究内容についてのプレゼンテーション練習を行います。</p> <p>大学での学びの集大成として、自分の作品を限られた時間内に他の誰かに伝えることに挑戦してほしいと思います。</p> <p>個人の研究を各自で進めてもらい、作業の進捗状況については適宜報告を行ってもらいます。</p> <p>学術論文に仕上げるために、文章の書き方や資料のまとめ方などについての個人指導を行います。また、各自の卒業論文の発表を行うべく、プレゼンテーションの方法についても学んでいきます。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>				

学修到達目標	批判的思考を身につけ、社会問題について持論を展開できるようになる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。卒業論文を完成させるべく、執筆作業をすすめてください。
【復習】時間・内容	2時間。卒業論文執筆の進捗報告で同期のゼミ生や教員から得たアドバイスを活かしてブラッシュアップをおこなってください。

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文作成に関する取り組みの姿勢（30%） 卒業論文が学術論文としてのルールが守られ、オリジナリティのある内容であること（50%） プレゼンテーションの作成（20%） ※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。 ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。 また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。 社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。
フィードバック方法	卒業論文について、適宜講評をおこないます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	各履修生の卒業論文のテーマに応じて、参考文献の紹介を行います。
---------	---------------------------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>卒業論文執筆には様々なスキルが詰め込まれています。 たくさんの先行研究を渉猟する情報収集能力、知恵を仕入れるためのコミュニケーション能力、Word・Excelをはじめとした情報処理技術、研究対象を緻密に分析する根気、アウトプットするための文章力や表現力、最後までやり抜く持久力など、実に様々です。 そのため、この営みは、社会に出て行く皆さんにとってとても重要な経験になるでしょう。 仕事には、好きだけど苦手なこと、嫌いだけど得意なことなど、やってみないとわからないことが多いものですが、卒業論文の作成は自身をはかる試金石にもなるものだと思います。 骨の折れる作業ですが、大学での学びの集大成と一緒に仕上げていきましょう。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	臼井 陽一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	卒業論文のための研究と論文の執筆				
内容	ヨーロッパ戦後史に関わる主題とする。 ゼミでの報告と研究室での個人指導を組み合わせる。				

学修到達目標	学術論文の形式をもって歴史を語ることの意義について、意識できるようになる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	研究計画に即した作業。2時間。
【復習】時間・内容	教員から受けた指導をもとに研究計画に即した作業を修正。2時間

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文のクオリティ75%+最終報告会の口頭試問25%
フィードバック方法	中間報告会および最終報告会の後に、学生ごとに、卒業論文についてコメントを述べる。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	ウンベルト・エーコ『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房。
---------	-------------------------------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>選んだテーマについて、この大学で一番詳しくなろう。そのテーマについて、卒業した後も考え続けよう。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	矢口 裕子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	卒業論文執筆				
内容	<p>卒業論文は、四年間の大学生活の集大成となる重要なものである。そこで求められるものは、通常の講義やゼミのレポートとは質・量ともに格段の相違がある。</p> <p>各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、十分な情報収集と先行研究分析を行い、オリジナルの批評的視点、論の展開を経て、説得力のある結論に至ることが必要である。また、そこに至るプロセスは厳密に学術的なものでなければならない。そうして初めて、学位授与の要件たる卒業論文が完成しうる。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらう。</p> <p>前半は論文執筆の方法を学び、後半はそれに基づいて論文指導を行う。</p>				

学修到達目標	卒業論文を書くためのルール・技術を学び、執筆する能力が身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。資料・課題の精読。論文執筆。
【復習】時間・内容	2時間。前回書いた論文の校正と新たな節・章の執筆。

成績評価	
評価基準・方法	論文執筆のプロセスも無論重要だが、最終的には完成された論文の形式・長さ・内容を総合的に判断する。論文指導は基本的に添削→推敲を個別に行う。
フィードバック方法	論文添削。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	授業中に指示する。
---------	-----------

受講上の留意点等	
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	佐藤 若菜		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚				
内容	<p>本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。</p> <p>3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読み、発表する。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を発表し、執筆した草稿を定期的に提出する。3年次・4年次のゼミにおいては、全ての学生が発表者に対する質問をし、ディスカッションを行う。</p> <p><これまで指導した卒業論文のテーマ></p> <p>○中国・台湾・香港に関するテーマ</p> <ul style="list-style-type: none">・現代中国における若者の化粧行動：「90後」世代に着目して・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異：視聴者との共存状況に着目して・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代・日中民間交流における青年交流の位置づけ：対中認識にもたらしたもの <p>○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ</p> <ul style="list-style-type: none">・中国の女子大学生と親との関係：進路の選択に着目して・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して・日本におけるペットの死をめぐる議論：ペットロスに着目して・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策・同性婚をめぐる議論がうつしだす日本社会：1991-2019年の朝日新聞の記事938件を参照して <p>○その他：民族衣装、人類学理論、民族誌、文化など</p> <ul style="list-style-type: none">・日本のフォークロア・ファッションにおける循環性・「伝統文化」をレンタルし、シェアする若者たち：観光地での新しい着物実践に着目して・レヴィーストロースの構造主義：神話研究に着目して・学校で生まれ／消される男女差：子供とジェンダー・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して・日本の若年女性にみる瘦身願望の呪縛：理想体型からの解放にむけて・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から <p>毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。</p> <p>各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとにディスカッションを行う。</p>				

学修到達目標	自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。教科書を熟読し、関連事項を調べる。発表資料を準備する。指示に従い論文を執筆する。
【復習】時間・内容	2時間。発表内容の見直しと不明点を調べ理解する。添削された論文を見直し、理解したうえで修正する。

成績評価	
評価基準・方法	レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。
フィードバック方法	発表内容にコメントをする。論文を添削する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）

教科書/参考書	戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版社。 その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。
---------	---

<p>受講上の留意点等</p>	<p>学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかわる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	越智 敏夫			実務経験の有無	×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	政治思想と現代社会 あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」				
内容	<p>卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。</p> <p>ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。</p> <p>もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。</p> <p>ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。</p> <p>しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないで、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。</p> <p>こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。</p>				

学修到達目標	自らの意見を論理的に構築し、論文として他者に伝えることができるようになる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 テキストの事前講読と意見の整理による論文作成の進展。
【復習】時間・内容	2時間 ゼミナールでの議論の総括と意見のさらなる整理による論文作成の進展。

成績評価	
評価基準・方法	出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。
フィードバック方法	ゼミナール、卒業論文作成指導における意見交換は、ゼミナール、指導終了後もLINEなどのツールによって維持され、さらにフィードバックされる。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	<p>たとえば、下記。具体的には学生と相談します。</p> <table border="0"> <tr> <td>ヴェーバー『職業としての学問』</td><td>岩波文庫</td></tr> <tr> <td>ヴェーバー『職業としての政治』</td><td>岩波文庫</td></tr> <tr> <td>ベンヤミン『複製技術時代の芸術』</td><td>晶文社</td></tr> <tr> <td>ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』</td><td>講談社文芸文庫</td></tr> <tr> <td>アレント『全体主義の起原』</td><td>みすず書房</td></tr> <tr> <td>アレント『暴力について』</td><td>みすず書房</td></tr> <tr> <td>丸山眞男『現代政治の思想と行動』</td><td>未来社</td></tr> <tr> <td>丸山眞男『日本の思想』</td><td>岩波新書</td></tr> <tr> <td>フーコー『知への意志 性の歴史』</td><td>新潮社</td></tr> <tr> <td>フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』</td><td>新潮社</td></tr> </table>	ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫	ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫	ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社	ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫	アレント『全体主義の起原』	みすず書房	アレント『暴力について』	みすず書房	丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社	丸山眞男『日本の思想』	岩波新書	フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社	フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社
ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫																				
ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫																				
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社																				
ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫																				
アレント『全体主義の起原』	みすず書房																				
アレント『暴力について』	みすず書房																				
丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社																				
丸山眞男『日本の思想』	岩波新書																				
フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社																				
フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社																				

受講上の留意点等	<p>自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかなです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこををよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。</p> <p>合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。</p>
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	熊谷 卓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	卒業論文をしっかりと書く。水準に達しない場合、単位を出しません。				
内容	卒業論文の執筆を指導します。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 水準に達しない場合、単位を出しません。				

学修到達目標	卒論が書ける
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	十分な予習と復習（１時間）
【復習】時間・内容	十分な予習と復習（１時間）

成績評価	
評価基準・方法	論文に値する基準となっているかどうか。
フィードバック方法	いつでも見ます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	別途指示。
---------	-------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>卒論執筆は孤独で大変な作業です。 しかし、それを乗り越えることで、大きな成果を得ることができるはずです。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	小山田 紀子			実務経験の有無	×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	グローバル化と地域社会				
内容	<p>学生が3年次後半に決めた個別研究テーマに従って文献資料収集や現地調査、インタビューなどを進める。その際、先輩たちの卒業論文集を参考にしたり話を聞いたりする。テーマの決定と資料収集に当たっては教員と相談しながら進めていく。研究の進み具合によって順番に研究報告をし、他の学生からの質問や議論の中から示唆を得て研究をさらに豊かなものになるよう進めていく。最終的には卒論中間発表会の成果を踏まえて、教員の個別指導を受けながら卒論を完成させる。</p> <p>今年度は、フランスの移民問題、中東の地域研究、日本の外国人労働者問題などのテーマが取り上げられる予定である。</p> <p>●これまでの卒業研究のテーマ（小山田ゼミで取り上げられたテーマ）</p> <p>「エジプト革命-ナセルの政治-」 「ドイツにおけるトルコ系移民-国民国家への統合をめぐる-」 「シオニズム運動の思想とその時代背景」 「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平の行くえ-イスラエル側からの視点-」 「ケマル革命-トルコ近代国民国家形成に関する考察-」 「石油開発の歴史と環境問題-中東石油を中心に-」 など 「クルド人問題-中東の少数民族-」 「日本における無国籍者-日本の国籍法に関する考察-」 「チュニジア・ジャスミン革命-その歴史的要因と『アラブの春』の行方-」 「カダフィの生涯-リビア革命からアラブの春まで」 「アルジェリア独立戦争-フランス植民地支配の歴史と戦争の記憶-」 「フランスの教育問題-教育優先地域（ZEP）を中心に-」 「フランスの移民政策とムスリム系移民の現状-2005年の郊外暴動を中心に-」 「フランス移民二世代における社会的統合-共生社会に向けて-」 「現代フランスの子育て支援-女性の社会進出と家族政策-」 「パリ・コレクションの歴史-世界ファッションへの影響-」 「フランス凱旋門賞と日本馬の挑戦」 「在日ムスリムの生活と文化-新潟アンヌールモスクの事例を中心に」 など</p> <p>各学生の個別研究を進め、ゼミでは順番に中間報告をして議論し、教員の指導を受ける。 卒論中間発表会の成果を踏まえて期日までに卒論を完成させる。 その成果は合同ゼミの卒論発表会で発表される。</p>				

学修到達目標	卒業論文は、4年間の学生性格の成果を到達点を示すものである。一つのテーマに絞ってあらゆる角度から分析して完成した卒論は最後の発表会で、みんなの前で発表する。 このことにより、大学生としても勉学の成果があらわされ、今後の人生の基盤となることを目指す。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習は、毎回卒論の作成のための準備の発表と行うために2時間の勉学を必要とする。
【復習】時間・内容	復習は毎回の発表で受けた議論やコメントから考察したことをノートにまとめておく。2時間を必要とする。

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文の内容の成果と、そこに至るプロセスも含めて評価する。また、完成後の卒論発表会での発表と質疑への対応も評価に加味する。
フィードバック方法	卒論最終発表会での報告に対して講評を行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	各学生が個別研究のテーマで、参考文献を決めていく。
---------	---------------------------

受講上の留意点等	<p>3年次と同じ。</p> <p>卒論テーマに関する調査や現地視察などの成果を卒論作成のための準備として、プリントにまとめたりやパワーポイントなどの使用によって発表してもらう。それは卒論中間発表会や卒論発表会での準備作業になる。</p>
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	山田 裕史		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	「国際協力・SDGs」に関連する卒業論文の作成				
内容	「国際協力・SDGs」に関連する研究テーマを各自が設定し、卒業論文を作成します。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 各自の研究発表と討論、論文草稿へのコメントを中心に進めます。				

学修到達目標	学術的技法に則って説得力のある論文を執筆することができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。指定された文献の精読、論文草稿の執筆。
【復習】時間・内容	2時間。添削やコメントをもとに論文草稿の修正。

成績評価	
評価基準・方法	論文の構成や内容だけでなく、論文が学術的技法に則って執筆されているか、文章表現は適切かといった点も含め、総合的に評価します。
フィードバック方法	提出された論文を添削し、コメントを付して返却します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	卒業論文の執筆に際して以下のテキストを参照するほか、各自の研究テーマに応じた文献を紹介します。 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術：プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010年 戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012年
---------	---

受講上の留意点等	「国際協力・SDGs」に関する知見を深めることはもちろん、「学术论文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	佐々木 寛		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	卒業論文指導				
内容	<p>卒論のテーマは、指導教員との対話、ゼミの仲間とのディスカッションやワークショップなどを通じて、個々人の内に眠っている問題意識を、時間をかけて浮かび上がらせませす。</p> <p>以下、参考までに過去の卒業論文タイトル例です（2013年度）。</p> <ul style="list-style-type: none">◎ 「かわいい」論―「やさしさ」の発見◎ 日本のアジア主義と朝鮮―宮崎滔天を中心に◎ シュタイナー思想の可能性―新しい人間から新しい社会へ◎ 現代人の＜恋愛＞のゆくえ◎ 「サバルタン」としての原発労働者◎ パウロ・フレイレ―人間解放の教育学◎ 「ニューヨーカー」とは何か―コスモポリタンのアイデンティティ◎ ホスピタリティ―おもてなしの社会史◎ 日本はナマコの眼からよく見える―鶴見良行 再読◎ ナチスのプロパガンダ―大衆をつかむ技術について◎ アメリカの福音派―その原理主義と社会への影響◎ ヤマモト・ヨウジ論―闘争としてのデザイン◎ フィンランドの子育て支援から学ぶ―地方自治体の役割と課題 <p>以下は、2017年度。</p> <ul style="list-style-type: none">● 「人間が人間らしく生きるために―エーリッヒ・フロムにおける自由と希望」● 「ミヒャエル・エンデ『モモ』を読む―遊び・時間・自由」● 「雨の降る時こそ、晴れ渡った顔つきを―アラン『幸福論』再読」● 「就職活動における「内面」評価の政治学」● 「ヴィクトール・フランクルの思想―現代を生き延びるために」● 「“文明”を考える―宇宙人類学、グランド・ヒストリー、未来学の視点から」● 「2つの流行―ファッションとは何か」● 「『自分らしく生きる』とはどういうことか―チェ・ゲバラの生き方から学ぶ」● 「“希望”という名の言語、“エスペラント”とその日本における影響―柳田国男・宮沢賢治を中心に」 <p>このように、あらかじめテーマは限定せず、自分が一生取り組むテーマを探して、自分のための卒業論文を書きます。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>基本的に仲間同士の報告を通じて、お互いに内容を高め合います。指導教員との1対1の指導も行います。</p>				

学修到達目標	卒業論文を書くことで、卒業後も自分がよって立つ思考の礎が形成されます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧
【復習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧

成績評価	
評価基準・方法	論文に取り組む姿勢や努力、加えて、論文の完成度によります。参加・努力（60%） 論文の水準（40%）
フィードバック方法	ゼミ合宿等で講評します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	各学生によって異なります。
---------	---------------

受講上の留意点等	
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	澤口 晋一			実務経験の有無	×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部C：新潟の地域社会にあつて学術的素養を日々に活かす方途をたえず模索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること		
授業の目的・テーマ	地理学に関連する諸分野（人文地理学＝例えば、地域活性化、まちおこし、観光関連、方言や祭りなど民俗・文化等々および自然地理学各分野）、地球環境問題、資源・エネルギーに関する問題等を対象として、卒論の作成に取り組みます。				
内容	卒論の完成にむけて個別指導を中心としたゼミになります。				

学修到達目標	①資料（論文、専門書）の読解力を養う。 ②現地に向いて独力で調査を遂行する力を養う。 ③現地調査を通じて得られたデータの分析力を養う。 ④以上の３点を整理し、論理的に文章化しプレゼンできる力を養う。 こうしたことは大学だけで必要なものでは決してありません。社会に出て常にも必要とされる素養であると認識してください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習・復習といったことは特にありません。卒論の作成・執筆に毎日数時間（当然、2時間以上）必要になります。手抜きは許しません！
【復習】時間・内容	予習・復習といったことは特にありません。卒論の作成・執筆に毎日数時間（当然、2時間以上）必要になります。手抜きは許しません！

成績評価	
評価基準・方法	卒論への取り組み姿勢、成果等を総合的に評価し、判断する。
フィードバック方法	澤口ゼミでは、中間発表が卒論作成のピークと捉えます。ここまではパワーポイントを利用して、データや各種資料の整理と表示方法を考えてきます。なお中間発表までに通常3回の予行演習を実施します。実際の卒論執筆（文章化）は、中間発表が終わってからの1カ月の短期決戦です。1章ごとに徹底的に添削して返却し、修正

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	卒論作成・執筆に必要な文献・資料。
---------	-------------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>卒論執筆（文章化）期間はアルバイトは禁止しています。アルバイトをしながら書けるようなものではありません。注意してください。</p> <p>以下に、ここ2年間における卒業論文のタイトルの一部を示しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンファクトリーによるまちづくりとその効果-燕・三条地域を例に- ・佐渡ジオパークにおける観光客・住民の意識調査 ・コンテンツツーリズムとしてのYoutuberの可能性と課題-愛知県岡崎市を事例として- ・年齢別・地域別にみた新潟県における東京型アクセント・イントネーションの変化 ・大熊 孝の治水論に基づく日本のこれからの治水のあり方 ・阿賀野市の地域通貨「あがのポイントカード」の現状と課題 ・新潟市中央区古町商店街の衰退と再生 ・北陸新幹線開業と並行在来線第三セクター化の影響 ・新潟市における農産物直売所と地域活性化との関わり ・クルーズ船による観光振興の可能性について-日本人若年層のクルーズ船利用者数を増加させるために- ・外来昆虫に関する日本人の意識と問題
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	アレクサンドル プラーソル		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	ゼミで下記のテーマを中心として授業を進める。 ①ロシア社会・文化の歴史と現代 ②日露文化比較研究				
内容	生徒にゼミテーマに沿うっての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 ゼミ生数や、それぞれの研究テーマや、ロシア語学力等によって毎年相談のうえに決定する。				

学修到達目標	近代ロシアの国家と社会が形成されてきた過程に関する知識が身につくことによって現代ロシア民衆のメンタリティや社会・政治に対する意識を理解できるように考えていく。
実務経験との関連性	異文化のロシアで生まれ育ち、それまで得た実務経験を生かして現代ロシアの社会・政治・文化の事情を紹介する。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料の予習
【復習】時間・内容	2時間・配布された資料の不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	出席率（66%以上が必要）、発表や発言の質、論争参加によって成績を評価する。
フィードバック方法	レポートや発表のフィードバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	ゼミ生のテーマに沿った参考書や補足資料を利用する。
---------	---------------------------

受講上の留意点等	<p>早めに興味のある研究テーマを選んで、毎回発表を行って、卒論研究を徹底的に進めることが重要である。</p> <p>研究の目標は次の通りである。</p> <p>グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体の問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。</p> <p>異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。</p> <p>日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。</p>
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	鈴木 佑也		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310013	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	存在しない物語を掘り起こす-ロシア・ソ連地域の文化現象を対象に（卒業論文編）				
内容	講師が担当するゼミに所属する参加者の卒業論文作成のために必要な指導を行い、参加者は自らが選んだ研究テーマを進捗具合に応じて報告し、卒業論文を完成させる。個別指導という形になるので、ゼミの進捗状況に応じて決定する。				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の文化現象を分析/批評する知識や視点が身につく。 ・文化現象に対して多角的な視点から分析/調査することができるようになる。 ・ロシア/ソ連(または社会主義圏)の文化事象に対して、政治とリンクさせて考察を深めることができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。これは最低限の時間であって、関心のあるテーマや自らが取り組む課題であれば何時間かけても「多い」ということはない。
【復習】時間・内容	2時間。ゼミや卒論では、おそらく1回目を除いて、予習と復習が繋がっているの

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文の内容（質）と完成するまでのゼミでの取り組み姿勢から評価する。
フィードバック方法	発表や課題に対する講評はできるだけ授業内に行い、他の学生が参考となる（論理の組み立て方、着眼点の置き方、批評方法など）ようにしたい。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	基本的に論文作成が主となるため、購読に必要なテキストは使用しない。ただし論文作成に関するテキストは個別に指示する。
---------	---

受講上の留意点等	<p>卒業論文作成はゼミで培ったことを完成させるということであり、個人の努力に委ねられる。限りある時間の中で一定の基準のものを完成させるのはもちろんだが、自らがある程度納得できるものにするために必死で取り組んでもらいたい。限りある資源（時間、体力、情報）で課題（論文）を、求められたクオリティ（評価）で仕上げるということは、就学期間で終わることなく今後生きていく上で常に課せられることである。論文作成の過程でその都度自らのやるべきことを認識しながら、対象テーマの知識を深めてもらいたい。</p>
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	藤本 直生		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	英語による社会言語学および談話分析 Sociolinguistics & Discourse Analysis in English				
内容	<p>「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、3年次の国際研究ゼミナール3、4で学んだ次の10の観点からなる社会言語学の基本的なコンセプトをもとに、談話分析の研究手法も加えて学びます。</p> <p>1. Gender 男女によることばの差 2. Age 年齢差によることばの違い 3. Ethnicity 人種・民族による言語差 4. Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い 5. Language and culture 言語と文化 6. Forms of address 呼びかけ表現 7. Politeness ことばによる丁寧表現 8. Image and association イメージと連想 9. Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース 10. Nonverbal language 非言語伝達</p> <p>各学生の個別研究を進め、ゼミでは順番に中間報告をして論議し、教員の指導を受けます。</p>				

学修到達目標	社会言語学の知識と談話分析の研究手法を身に付け、5,000ワードの英語による卒業論文が執筆できるようになる。
実務経験との関連性	中学校での英語教員としての経験を活かし、英語で専門科目を学ぶ際に必要とされるプロセスを重視した教育を行なう。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間・各自のペースで卒論を執筆する
【復習】時間・内容	2時間・教員からのフィードバックをもとに加筆修正する

成績評価	
評価基準・方法	授業態度・授業への参加（30％）、卒業論文（50％）、中間・最終発表（20％） 卒業論文の内容の成果とそこに至るプロセスを含めて評価します。また、完成後の卒論発表会での発表と質疑応答への対応も評価に加味します。
フィードバック方法	卒業論文は定期的に個別指導し、授業で解説する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク

教科書/参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中春美&田中幸子編著、ミネルヴァ書房 ・『タテ社会の人間関係-単一社会の理論』中根千枝著、講談社現代新書 ・『「甘え」の構造』土居健郎著、弘文堂 ・『表と裏』土居健郎著、弘文堂 ・プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを毎回持参すること
---------	---

受講上の留意点等	ことばやさまざまな言語に関心があり、英語で社会言語学と談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、藤本ゼミを受講して下さい。
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	申 銀珠		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	韓国・朝鮮と日本～「今」と「これから」を考える その他				
内容	<p>「国際研究ゼミナール3， 4， 5」で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて「国際研究ゼミナール6」で発表してもらう。「国際研究ゼミナール」の時間の他に、個別に議論、意見交換、指導等を行う。卒業論文のテーマは遅くとも6月までには決めてほしい。</p> <p>申ゼミの主な卒論タイトルを紹介します。参考にしてください。</p> <p>1. 環日本海地域の発展と北朝鮮の重要性 2. 韓国の一回用品使用規制からみるエコの取り組み 3. ハングルの世界 4. パンソリから見る映画『風の丘を越えて』の世界 5. 現代韓国における結婚事情 6. 国際社会から孤立する北朝鮮 7. 「朝鮮戦争」を描いた韓国映画の変化 8. 韓流ブームが巻き起こした現象ー冬ソナはなぜ日本で流行したのかー 9. サムスン電子の歩みー「新経営」の実態と、今後の課題ー 10. 韓国の少子化ー社会問題からみる韓国 11. 東京ー極集中化と地方過疎化の現状ー改善の糸口を考えるー 12. 韓国経済と財閥ー止まらない格差拡大と韓国を出ていく若者ー 13. 韓国の多文化共生社会への取り組み 14. ヘイトスピーチ解消法ー立法から見える日本の現状ー 15. 韓国人の美容意識</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>卒論テーマに関する個人発表。 パワーポイント使用。 個人指導による内容の検討。</p>				

学修到達目標	韓国と日本の様々な分野での比較の視点の重要性を理解することができる <今>と<これから>を常に自覚し、考える力を身につけることができる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	4 時間 卒論関連の参考文献の熟読など
【復習】時間・内容	4 時間 議論になった部分、参考資料の不明点などを理解する

成績評価	
評価基準・方法	論文の構成、論理性と独創性を重視 プレゼンテーション能力を重視
フィードバック方法	個別に指導 中間発表、最終発表を参照

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／プレゼンテーション

教科書/参考書	ゼミ生の研究テーマに応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい
---------	---

受講上の留意点等	
JABEE	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	瀬戸 裕之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	「東南アジア地域研究」に関する卒業論文執筆				
内容	本ゼミの卒業論文執筆では、東南アジアの歴史、政治、経済、国際関係、社会変容に関する分野で、学生が自ら卒業論文のテーマを選び、それに基づいて学生が本や資料を調べ、卒業論文を執筆します。 学生による資料収集、構想報告、中間報告、論文の執筆に際しては、学生がゼミで内容を報告し、ゼミに所属する学生たちとディスカッションを行うことで進めます。また、教員は、学生の資料収集、論文構成、執筆に際して、学生にアドバイスをを行い、論文の完成をサポートします。				

学修到達目標	履修者が、自らの卒業論文のテーマに従って本や資料を読み、卒業論文を執筆します。 ゼミでは、調べたこと、執筆した部分について、ゼミの時間に報告し、報告者以外の学生との間で質疑応答を行い、ディスカッションをします。教員は、学生が論文を完成させるために必要な作業についてアドバイスします。完成した論文は、卒業論文発表会で報告します。 卒業論文の執筆を通じて、学術的なレポートのテーマ設定の方法、資料収集の方法、資料への引用を行いながら執筆する方法、最終結果のプレゼンテーションの方法など、研究レポートの執筆方法が身につきます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。卒業論文のための資料収集、文献の読解、論文の執筆などの作業
【復習】時間・内容	2時間。ゼミで議論した点、教員が指摘した点について整理し、資料を読み直して原稿を執筆・修正する。

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文のテーマ、構成および内容（70%）、口述試験の準備および発表（30%）に基づいて成績を出します。
フィードバック方法	学生が提出した中間報告に対してコメントを付してフィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	学生の卒業論文のテーマに従って、必要な本や資料をアドバイスします。
---------	-----------------------------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>卒業論文は、大学生生活の総仕上げの作業です。大変な作業ですが、途中であきらめずに頑張りましょう。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	吉澤 文寿		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310013		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	オリジナリティを目指した卒業論文執筆				
内容	<p>私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。</p> <p>学生各人が前学期までに進めた研究内容を深め、さらなる文献や史料による補完を進めつつ、卒業論文の内容を報告する。私からも参考になる資料や文献を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。</p> <p>10月～11月の中間発表会、12月の論文提出、そして1月の最終発表会が目標となる。</p>				

学修到達目標	学術研究として認められる卒業論文が提出できる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。卒業研究のための事前調査学習。
【復習】時間・内容	2時間。研究発表後の自主研究により、自らの研究に対する理解を深める。

成績評価	
評価基準・方法	中間発表会、提出された卒業論文、そして最終発表会で評価する。
フィードバック方法	研究発表および提出された論文に対して講評を行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	4年次後期のゼミでは、特定のテキストはないが、以下の文献を貸与する。 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年
---------	--

受講上の留意点等	<p>もし、このゼミから初めて参加する者は、事前に卒業研究のテーマを設定し、先行研究をある程度整理するとともに、とくに夏季休暇終了までに調査研究しておくことが望ましい。このゼミに参加することが決まった段階で、私に連絡すれば対応する。</p>
JABEE	